

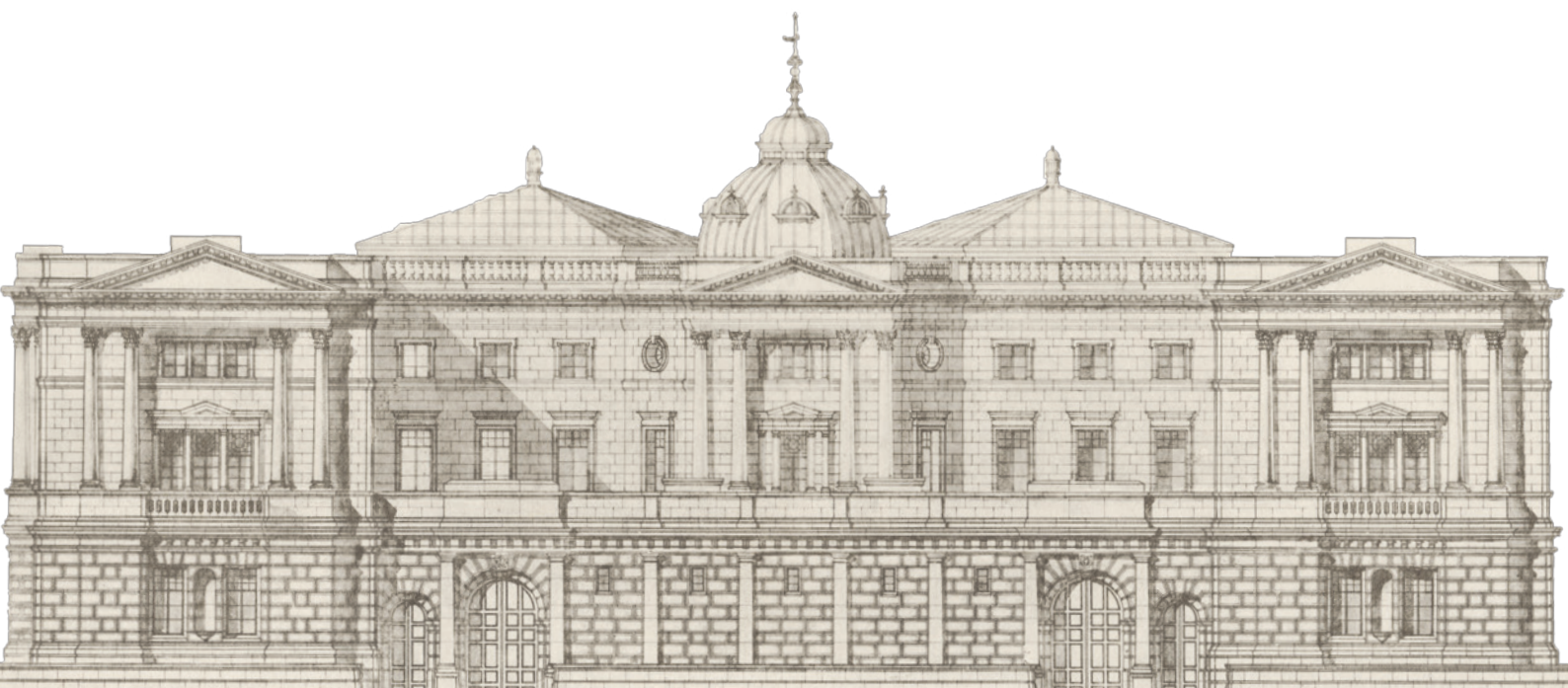
K. TATSUNO
100
ARCHITECT

辰野金吾没後100年特別展

辰野金吾と

日本銀行

—日本近代建築のパイオニア—

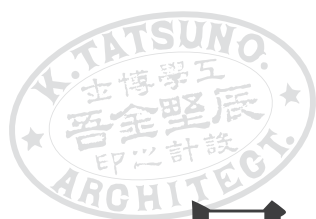


1888
辰野金吾没後100年特別展

辰野金吾と

日本銀行

—日本近代建築のパイオニア—



Tatsuno Kingo and Bank of Japan: The Pioneer of Modern Architecture in Japan



ごあいさつ

明治・大正期に日本銀行や東京駅などを設計し、日本近代建築の礎を築いた辰野金吾。2019年は、辰野金吾の没後100年にあたります。その節目の年に、日本銀行貨幣博物館では、辰野金吾に関する特別展を開催いたします。

辰野金吾(1854-1919年)は日本銀行本店の設計のため欧米を視察し、帰国後、工事監督として日本銀行本店本館(重文)の建築を行いました。その後も日本銀行建築工事顧問として京都支店(重文・現京都文化博物館)など各地の支店の建築を担いました。日本銀行の建築に関与した期間は25年におよび、辰野金吾の建築家人生の重要なパートを占めています。

辰野金吾がどのような歩みを経て日本銀行本店を設計するに至ったか、これまで知られていなかった資料と共にご紹介します。また日本銀行本店本館とその後に手がけた各地の日本銀行の建物を通して、辰野金吾の日本近代建築に果たした功績をたどります。

最後になりましたが、本展開催にあたり貴重な資料を快くご出陳いただきました所蔵者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、関係各位に厚く御礼申し上げます。

日本銀行金融研究所貨幣博物館

辰野金吾没後100年3館連携企画のご案内

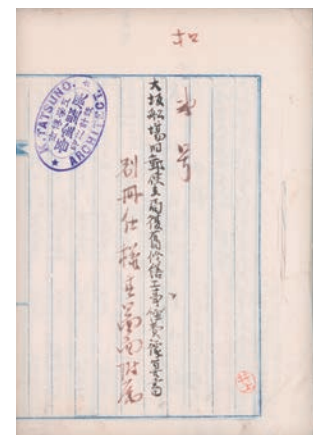


辰野金吾の没後100年の展示企画は京都文化博物館、日本銀行貨幣博物館、東京ステーションギャラリーの連携企画です。



辰野金吾が実際に使用したスタンプがモチーフです。今回の展示企画で三館共通のロゴとして使用します。

3館連携チラシ
(2019年3月25日辰野金吾命日にプレスリリース)



「工学博士辰野金吾設計之印」
が押された資料(辰野家蔵)

開催館 (関連する歴史的建造物、 全て国指定重要文化財)	開催期間 2019年	展覧会名・テーマ
京都文化博物館 (旧日本銀行京都支店)	8月31日～10月27日	文博界隈の近代建築と地域事業
日本銀行貨幣博物館 (日本銀行本店本館)	9月21日～12月8日	辰野金吾と日本銀行 —日本近代建築のバイオニア—
東京ステーションギャラリー (東京駅丸の内駅舎)	11月2日～11月24日	辰野金吾と美術のはなし

担当学芸員：京都文化博物館／村野正景、日本銀行貨幣博物館／関口かをり、東京ステーションギャラリー／半澤紀恵



辰野金吾 日本銀行から東京駅へ

— 辰野金吾没後 100 年に寄せて —

藤森照信・東京大学名誉教授（江戸東京博物館館長）

「建築家として生まれたからには、日本銀行と東京駅と国会議事堂の三つを建てたい」

と辰野金吾は、語っていた。そして、二つを実現し、三つ目をコンペで選んだあと自分が手を入れて実現しようとしたところで、1919（大正8）年スペイン風邪で亡くなっている。

実現した二つで採用された建築スタイルは、ともに大英帝国に由来するが内容は大きく異なり、まず、1896（明治29）年に完成した日銀はジョージア朝のスタイルを基本とする。

ジョージアンはイギリスの産業革命期のスタイルとして知られ、白い石を使って古典主義（ギリシャ、ローマ系）的に装い、見る者に力強さと質実さを印象付ける。日銀の設計は1888（明治21）年に始まっており、辰野は技術革新と資本主義誕生で知られるイギリスの産業革命を強く意識してジョージアンを選んでいる。

日銀の印象があまりに固かったことから、大学時代の同級生たちは「辰野堅固」とからかったというが、辰野にしてみれば日本近代の発展段階を深く考えてのジョージアンだった。

日銀が誕生した後、日本の産業と経済の近代化は急速に進み、日露戦争勝利のあと、1906（明治39）年、辰野は東京駅設計に取り掛かるが、その時、選んだのは、ジョージアンではなく、ヴィクトリア朝のスタイルであった。

ジョージア朝の産業革命の成功の後を受けて出現したヴィクトリアンのスタイルは、前後二つに分かれ、前半は華やかな赤煉瓦のゴシックを主とするが（ゴシックリヴァイヴァル様式）、後半は石の古典系と赤煉瓦のゴシック系が入り混じり（クィーンアン様式）、見る者に豪華にして楽しい印象を与える。

辰野は明治10年代初頭のイギリス留学時にクィーンアンを初めてみた時、“今の日本には早過ぎるが、将来はやりたい”と述べているが、ついに日本にも豪華を楽しむ時期が訪れたと判断し、そして設計を進め、1914（大正3）年、東京駅が完成する。

明治そして大正という時代は、ヨーロッパ各国で過去に出現した歴史的なスタイルを次々にリヴァイヴァルしたり折衷したりする〈歴史主義〉の時代であり、今から見るとヨーロッパ建築史のオモチャ箱をひっくり返したような時代に違いないが、しかし、その中で生きた日本の建築家は、時代の動きと作る建築の用途の二つをにらんで一番ふさわしいスタイルを選択していた。決して場当たりに選んだわけではなかった。

目次

ごあいさつ	2
辰野金吾 日本銀行から東京駅へ／藤森照信	3
Ⅰ 辰野金吾とその学び	5
Ⅱ 日本銀行本店本館の建設	20
Ⅲ 辰野金吾が手がけた日本銀行建築	35
Ⅳ 辰野金吾の建築と育てた弟子たち	42
古典主義建築としてみる日本銀行本店本館／菅野裕子	48
外観にみられるドリス式オーダーとコリント式オーダーのディテールについて	
日本人建築家による初めての国家的建築／中村茂樹	51
日本銀行建築と辰野金吾研究に向けた現存史資料の整理／関口かをり	53
主要参考文献	54

凡例

- ・本書は、日本銀行金融研究所貨幣博物館が開催する辰野金吾没後100年特別展「辰野金吾と日本銀行—日本近代建築のバイオニア—」（会期：2019年9月21日（土）～2019年12月8日（日））の展示図録である。
- ・本書に掲載の資料のうち、「東京大学蔵」については、東京大学大学院工学系研究科建築学専攻の所蔵資料である。
- ・本書に掲載の資料は、特に注記のない紙資料は、日本銀行（金融研究所貨幣博物館、金融研究所アーカイブ）の所蔵資料である。
- ・本書に掲載の資料は、一部展示されない資料を含んでいる。
- ・資料名は、原則として資料に表記されている原題としたが、資料の内容に即して適宜付したのものもある。

内扉写真

- ・ドーム：関東大震災で消失したドームを1926年に復元したものの。
- ・コリント式柱頭：本文参照。
- ・正門青銅製獅子額：工部美術学校を卒業した彫刻家・菊地鋳太郎による。